

相模原市感染症情報

2024年3月



今月の注目疾患：麻しん（はしか）

麻しん（はしか）は感染力が極めて強い感染症で、麻疹ウイルスに対する免疫のない人が感染するとほぼ100%発症するといわれています。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合では脳炎が発症すると言われ、重症のときには死に至ることもあります。

国内での報告数はコロナ禍において減少しましたが、2023年は報告数が増加し、今年に入っても輸入症例や国内における感染事例が確認されており、更なる増加が懸念されています。

世界における麻しんの流行状況 (令和5年1月～令和5年12月)

国名	報告数	人口100万人あたり報告率
イエメン	47767	1386.57
アゼルバイジャン	13735	1319.07
キルギスタン	13195	1045.83
カザフスタン	15111	770.71
リベリア	3910	721.62
カボン	1201	492.91
中央アフリカ	1534	267.14
カメルーン	6101	212.97
イラク	9367	205.85
アルメニア	554	199.43



出典：WHO(世界保健機関) 麻しん人口10万人あたり報告率

(令和5年2月現在；一部改定)
<https://www.who.int/news/item/2023-11-15-immunization-vaccine-and-biologicals-immunization-analysis-and-insights-surveillance-monitoring-provisional-monthly-measles-and-rubella-data>

引用：NIID国立感染症研究所 HP

海外では、麻しんの流行が報告されており、特にヨーロッパや東南アジアは報告数が多い地域となっています。

海外へ渡航予定があるときは流行状態やご自身のワクチン接種履歴確認することが重要です。

また、帰国後2週間程度は健康状態に注意してください。

学校保健安全法において第2種の感染症。

解熱した後3日を経過するまで出席停止とされています。

主な症状

感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。

麻疹の主症状は発熱が約1週間続き、合併症がなくても入院を要することが少なくなく、回復までには時間のかかる重症な感染症といえます。



感染経路

- ・ヒトからヒトへの空気感染
- ・咳やくしゃみによる飛沫感染



感染力が非常に強いいため、麻しんの免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～14人の人が感染するとされています。(インフルエンザでは1～2人)

予防方法



麻しんの最も有効な予防法は予防接種です。定期予防接種の対象者は2回接種の機会を逃さないことで免疫を獲得しましょう。麻しんの罹患歴がなく、2回の予防接種歴が明らかでない場合は予防接種を検討しましょう。

※生ワクチンのため、妊娠中は接種できません。

※麻しんを疑う症状が現れた場合は、事前に医療機関に電話連絡してから受診してください。

★相模原市感染症情報センターでは、毎週感染症に関する情報を掲載しています



相模原市 感染症情報センター



発行：相模原市衛生研究所